

【クレーム情報】

コーティング加工の剥離

コーティング加工やボンディング加工、ラミネート加工などの素材を使用したジャケット、コート類は、冬物の定番商品として定着している。これらの加工に使われている合成樹脂が経時劣化するため事故になることはよく知られたことであるが、今回は、クリーニングとは全く関係ない事例の一つとしてコーティング加工が経時劣化したことによる剥離事故を紹介する。

原因

コーティングしているポリウレタン樹脂が、長期の使用の間に空気中の水分などによる作用を受けて経時の劣化したことで、コーティングの皮膜と織物の接着の剥離が生じたものでシワの原因にもなっている。

事故の経緯

コートの持ち主は、平成15年に購入した後、クリーニングをせずに平成19年の初めまで着用していた。平成20年になって、コート表側のコーティング面にシワができ、べたついたようになってきているのに気が付いて、メーカーを通じてクリーニング総合研究所に相談があったもの。シワの著しい部分は、コーティングが簡単に剥離するような状態になっていた。

事故の防止対策

コーティング加工などに使用される合成樹脂の経時劣化は避けること

ができないため、抜本的な防止策はない。最終的には剥離やシミ出しなどの症状で、寿命を迎えることを情報として公開し、お客様に理解してもらうことが必要。この点についてはメーカー側にもケアラベル等でお客様に伝える必要がある。

クリーニングでの注意事項

クリーニングでの取扱いには次のような配慮が求められる。

- ・ 取扱い表示などで洗える製品かどうかを確認する（水洗い、ドライクリーニングのいずれも不可を表示している製品がある）。
- ・ 汚れが付着しやすく、かつ、着用による摩擦を受けやすい生地の部分、袖口、裾まわり、衿まわり、脇下などに異常がないかを確認する（汚れが合成樹脂の劣化を促進し、摩擦で剥離、脱落等が生じていることがある）。

・ べとつきなどの兆候があるものは剥離が生じる可能性が強いため、

クリーニングできないことをお客様に伝え、お断りすることが望ましい。

・ 平均使用年数は2年から3年程度であることをお客様に伝える。

・ 製品を製造してから2年以上経過している場合には購入の時期に関係なく合成樹脂の劣化が進行しており、クリーニング処理で剥離などが生じる可能性があることをお客様に伝える。

事故防止システムで検索

日本繊維製品・クリーニング協議会が運営する「クリーニング事故防止システム」でコーティング加工布の剥離事故を検索すると70件の事故情報が確認できる（1月31日現在）。

こうした実際の事例を店頭で示すことができれば、合成樹脂の経時劣化がクリーニングとは関係なく発生することをお客様にも無理なく理解してもらうことができる。

事故防止システムの利用には、日本繊維製品・クリーニング協議会への入会が必要です。詳細は、日本繊維製品・クリーニング協議会事務局にお問い合わせください。

TEL. 03 (5362) 7201



購入から4年ほど経過している。今シーズン着ようと思って取り出してみたところ、全体にべとつきが生じ、コーティングも剥がれるため、驚いてメーカーに問い合わせたとのこと。

一度もクリーニングはしていない。

- 品 名…キルティング地ジャンパー
- 素 材…ポリエステル織物の基布にポリウレタン樹脂をコーティング加工した生地。

■取扱い絵表示



- 事故の状態…事故品のコートは、ポリエステル織物の基布にポリウレタン樹脂をコーティング加工した素材を使用している。コーティング全体にべとつきが生じ、容易に剥離する。